



にじのはし幼稚園

園だより

平成28年12月号
港区立にじのはし幼稚園
園長 酒井 正美

イチョウのはっぱがおちてくる おおきなえだからおちてくる
ひらひらくるくるおちてくる みんながたのしいようちえん

11月12日、にじのはし幼稚園、お台場学園港陽小学校・港陽中学校開園開校20周年記念式典が挙行されました。たくさんのお客様の中、小学生、中学生とともに、5歳児いるか組が式典に参加しました。式後のアトラクションでは、3歳児ことり組、4歳児かもめ組も加わり、「レインボーマーチ」を楽しく元気に踊りました。

たくさんの方々にお祝いをしていただき、「幼稚園20歳おめでとう」「ありがとうございます」の思いを、子どもたちはもつことができました。ご支援、ご協力をいただきました皆様に、改めて御礼申し上げます。地域唯一の幼稚園として、これからもしっかりと幼児教育を進めて参ります。今後どうぞよろしく願いいたします。

さて、冷たい風の吹く日が続くようになりました。師走です。年末に向かい、大人は何かと忙しい季節です。

幼稚園教育要領の中に、「環境」という領域があります。幼児が経験する内容（学び）として、「身近な動植物に親しむ」「自然に触れる」などがあります。「季節により自然や人間の生活に変化のあることに気付く」という内容もあります。春の草花の芽、真夏の暑い日差し、突風にさらされて舞い落ちる落ち葉など、幼児は日々の生活の中で季節の変化を感じる場面に出会います。必ずしも、変化の様子を完全に理解するというのではなく、幼児自身がこれらに気付き、全身で感じ取る体験を重ねることが大切です。

年末年始に向けての準備や伝統的な設えも、幼児にとっては貴重な環境の一つです。大掃除、門松、お供え餅など、この時期ならではの環境です。「よいお年をお迎えください」「あけましておめでとうございます」などと大人が挨拶を交わす姿を見たり、幼児自身が挨拶をしたりする機会もあることでしょう。これは「言葉」の領域にも大きく関わりますが、大事な環境の一つです。

これらに周囲の大人が目を向け、気付かせたり一緒に楽しんだりすることで、幼児の経験は、ぐっと広がります。キラキラとしたイルミネーションも素敵ですが、時には凜とした伝統的な日本の文化に触れさせる機会をもちたいものです。グローバルな社会で生きていく素地として、幼児期より自国理解、自分が暮らす国への理解を深めていくことが必要と考えます。

幼稚園では、今年度の取り組みを振り返り、評価、反省を行う時期となりました。保護者の皆様には、アンケートのご協力をお願いいたします。いただいたアンケートの内容を分析、考察し、今後に活かしてまいります。

